

HAYDN

WIEN MUSEUM

BEETHOVEN

MOZART

SCHUBERT

STRAUSS

音楽家住居

モーツァルトは、どのように暮らしていたでしょう？ベートーヴェンはハイリゲンシュタットで何を探したのでしょうか？シューベルトの育った環境は？ウィーン・ミュージアムが管理する作曲家住居では、大作曲家の面影が間近に蘇ります。愛用の品々、そこに漂う雰囲気、数々の視聴サンプルによって、クラシックと音楽史の世界をお楽しみいただけます。同時にそれは、啓蒙時代からリンク大通り時代へ至るウィーンの歴史を辿るタイムトリップです。

音楽家住居

入場

ウィーン市内

ベートーヴェン・ミュージアム
 通常料金 7ユーロ
 割引料金 5ユーロ
 19才までの子供と青少年 無料!

モーツァルトハウス・ウィーンのモーツァルト住居
 通常料金 11ユーロ
 割引料金 9ユーロ

その他全ての音楽家住居
 通常料金 5ユーロ
 割引料金 4ユーロ
 19才までの子供と青少年 無料!

毎月第1日曜は全ての見学者：
 入場無料(モーツァルト住居を除く)

見学者のためのインフォメーション

電話 (+43-1) 505 87 47-85173
 service@wienmuseum.at

ガイドツアー予約

電話 (+43-1) 505 87 47-85180*
 service@wienmuseum.at (*月曜～金曜、9時～14時)

変更もあり得ますので御了承ください!



1 キロメートル

ウィーン・ミュージアムの音楽家記念館、シュテファン寺院への距離
 閉館日: 1月1日、5月1日、12月25日、休館日の月曜に重なる他の祝日

1 ベートーヴェン・ミュージアム
 ウィーン19区、プロプスガッセ6 火曜～日曜および祝日、10時～13時および14時～18時

2 ベートーヴェン・パス
 クアラティハウス
 ウィーン1区、メルカーバスタイ8 火曜～日曜および祝日、10時～13時および14時～18時

3 ベートーヴェン・エロイカハウス
 ウィーン19区、デブリンガー・ハウスシュトラッセ92 事前予約必要

4 ハイドンハウス
 ウィーン6区、ハイドンガッセ19 火曜～日曜および祝日、10時～13時、14時～18時

5 ヨハン・シュトラウス住居
 ウィーン2区、ブラーターシュトラッセ54 火曜～日曜および祝日、10時～13時、14時～18時

6 シューベルト生家
 ウィーン9区、ヌースドルファー・シュトラッセ54 火曜～日曜および祝日、10時～13時および14時～18時

7 シューベルト最期の家
 ウィーン4区、ケッテンブリュッケンガッセ6 水曜と木曜、10時～13時および14時～18時

8 モーツァルトハウス・ウィーンのモーツァルト住居
 ウィーン1区、ドームガッセ5 毎日 10時～19時

ドナウ川
 ドナウ運河
 シュテファン寺院



1 ベートーヴェン・ミュージアム



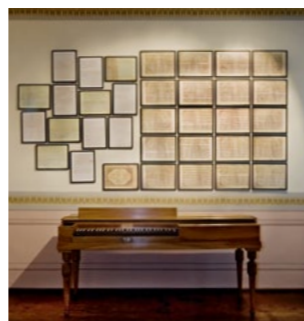
2 ベートーヴェン・パスクアラティハウス



ルードヴィヒ・ファン・ベートーヴェンは中断を含みながらも、この家で8年間を過ごしました。家の持ち主はヨハン・パプティスト・フォン・パスクアラティ男爵で、作曲家とは親しい間柄でした。メルカーバスタイにあるこの家でベートーヴェンが作曲した最初の大作は、オペラ「レオノーレ」でした(ベートーヴェンの意に反して、このオペラは後に「フィデリオ」と改題されました)。パスクアラティハウスでは更に、交響曲第5番と第6番の推敲が行われました。これらは既に、彼がバーデンとハイリゲンシュタットで避暑を過ごしたときから取り組まれていた作品です。

4 ハイドンハウス

ヨーゼフ・ハイドンは晩年の12年間をグンペンドルフで過ごしました。これは当時、ウィーン郊外の町でした。彼はイギリスへの演奏旅行の合間に家を購入し、上階を増築、1797年に65才で入居しました。創作活動の頂点にあった彼は、ここでオラトリオ「天地創造」と「四季」など多くの名作を生み出しました。又ここには、国内外から多くの著名人が、表敬訪問に訪れました。



6 シューベルト生家

当時ウィーン郊外であったリヒテンタールの小さな住居の台所で、フランツ・シューベルトは1797年に生まれました。ヌースドルファー・シュトラッセの家で、シューベルトは4歳半までを過ごしました。ここでは、シューベルトの受けた教育、音楽的発展、家族や友人が中心テーマです。ハイライトのひとつは、作曲家愛用の名高い眼鏡です。ここでは2室が、シューベルトの同時代人であった画家・作家アーダルベルト・シュティフターの記念室に充てられ、ビーダーマイヤー時代の風景画が展示されています。

→ 写真:ヘルタ・フルナウス



7 シューベルト最期の家

1828年11月に世を去る前の数ヵ月フランツ・シューベルトは、ケッテンブリュッケンガッセにある兄フェルディナントの住居で過ごしました。ここには、最後の時期に書かれた楽譜草稿、作曲家最後の手紙、彼の生死を気遣う親族の文書などが展示されています。

3 ベートーヴェン・エロイカハウス



ルードヴィヒ・ファン・ベートーヴェンが1803年の夏を過ごしたオーバーデブリンクは、当時まだウィーン郊外で、耕地、庭園、ブドウ園などが広がっていました。富裕なウィーン市民同様、ベートーヴェンも郊外の避暑地で、夏の歳月を過ごしました。ここでは1803年の5月から11月の間に、交響曲第3番「エロイカ」の大半が作曲されました。この作品によってベートーヴェンは、革命的な思想を抱く作曲家と見做されるようになりました。

5 ヨハン・シュトラウスの住居

ヨハン・シュトラウス(息子)は1860年代半ばから1870年代半ばまで、瀟洒でエレガントなプラーターシュトラッセに住んでいました。人気絶頂期に、彼は当時の世界的スターとして、ヨーロッパとアメリカを演奏旅行で巡りました。54番地の家では「非公式のオーストリア国歌」と呼ばれる「美しく青きドナウ」が作曲されました。数々の貴重な展示品の中には、ベーゼンドルファーのグランドピアノ、「ワルツ王」の所有していたアマティのバイオリンが含まれています。



↑ 写真:ヘルタ・フルナウス

← プラーターシュトラッセにあるヨハン・シュトラウス住居、写真:ヘルタ・フルナウス

↓ 1784年から1787年までW.A.モーツァルトが家族とともに住んだドームガッセ5番地の住居、©モーツァルトハウス・ウィーン/ダヴィト・ペーター

8 ウィーン・モーツァルトハウスのモーツァルト住居



ウィーンで唯一現存するモーツァルトの住居が、モーツァルトハウス・ウィーンの一部となり、選びぬかれた展示品とともに当時の様子を生き生きと再現しています。住居には4室と2つの小部屋、キッチンがあり、モーツァルトの生涯で最も高級で家賃の高いものでした。モーツァルト一家は、1784年9月から1787年4月末まで、ここに住みました。この2年半の間に「フィガロの結婚」を始め重要な作品が創造されました。

→ ヒエロニムス・レッシェンコール:ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト、1785年、銅版によるシルエット©ウィーン・ミュージアム



新たなベートーヴェン・ミュージアムでは、古典派の巨匠の生涯と作品が、最新の研究レベルで紹介されています。この家は、ベートーヴェンの過酷な運命と結び付いています。1802年、ここで彼は「ハイリゲンシュタットの遺書」を記しました。これは弟たちに宛てた手紙で、悪化する難聴に対する絶望が語られています。結局発送されることはありませんでした。ここで同じ時期にベートーヴェンは、最も重要な作品の幾つかに取り組んでいました。その中には、ピアノソナタ「テンペスト」や交響曲第3番(「エロイカ」)の最初の草稿が含まれています。



↑ 写真:クラウス・ピヒラー

← ベートーヴェン・ミュージアムの中庭、写真:ブリギットおよびペーター・カインツ

↑↑ 写真:ヘルタ・フルナウス

↑ オーバーデブリンク、トーマス・エンダーの水彩画、1814年©ウィーン・ミュージアム